

タイトル:平成 23(2011)年度 研究セミナー

日程:平成 23 年 12 月 19 日(月)～21 日(水)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階 マルチメディアセミナー室(306)

「アフガニスタン農村部における利益配分構造」

林 裕 (東京大学大学院)

「アフガニスタンを主たる対象地域としつつ、その農村部における土地権利をめぐる争いや政治構造に焦点を当てて考察する。」博士論文の方向性としてそのように考えていたものの、私は自らの研究の方向性や妥当性に悩んでおりました。そんな時に、「中東☆イスラーム研究セミナー」の存在をお世話になっている先生に教えていただきました。AA 研のウェブページ等で以前のセミナー内容などを拝見させていただきながら、果たしてアフガニスタンが「中東」に当たるのか、そして自分の研究関心が「イスラーム」とどれほど絡んでいるかと自問し、応募に躊躇する気持ちもありました。しかし、募集要項等において、イスラームもしくは中東に関連する研究であれば応募可能として、応募資格に関して、間口を広く書いてくださっていたことに勇気づけられ、論文執筆計画や発表要旨等の応募書類には自らの関心できるだけ正直に記載し、あとは AA 研の先生方のご判断にお任せしようと気持ちを整理して応募させていただきました。

幸いにも、中東☆イスラーム研究セミナーに快く受け入れていただき、発表の機会を得ることができました。1 時間の発表と1 時間の質疑応答という非常に贅沢、かつ恵まれた時間をいただきました。中東、イスラームや人類学等をご専門とする素晴らしい先生方が一同に、私の発表だけに 2 時間も費やしてくださり、また、その後の懇親会等でも丁寧なご指導をしてくださいました。

自分の研究関心に従い論文作成に取り組むことは、学問的生産性という点では重要ですが、同時に、自らの研究に対する客観的な評価や意見を得る機会が必要であるように思います。研究者としての先達である AA 研の先生方に精査いただく機会は、自分の研究の方向性や価値、取り組み方などに対して大きな示唆をいただいた機会であると同時に、素晴らしい先生方や他の研究者の方たちと知り合う良い機会でもありました。

最後になりますが、本研究セミナーを主催してくださり、また、私の拙い発表にも真摯にかつ丁寧にご対応くださった先生方や事務局の方々に心より御礼申し上げます。